

# 文法を楽しく!!

## 「他動詞・自動詞」(1)

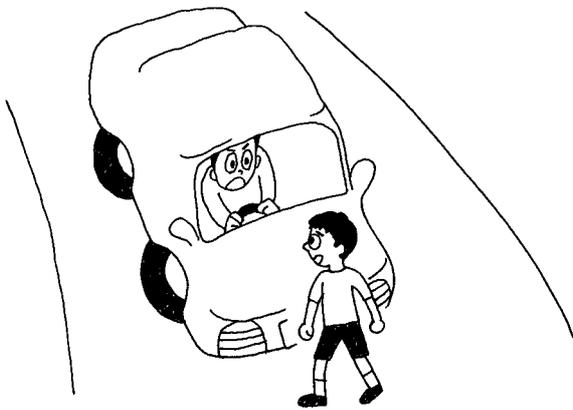
通信で習った項目: 他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と

今回と次回は「他動詞 transitive verb」「自動詞 intransitive verb」について勉強します。

日本語の動詞には「止める・止まる」「つける・つく」のように他動詞・自動詞が対(ペア)になっているものがあります。これらは混同しやすく、学習者にとっては難しい事項の一つです。

次の絵を見てください。この絵を見てあなたは a, b のどちらを言いますか。

- a. 男の子が車を止めた。
- b. (男の子がいたので) 車が止まった。



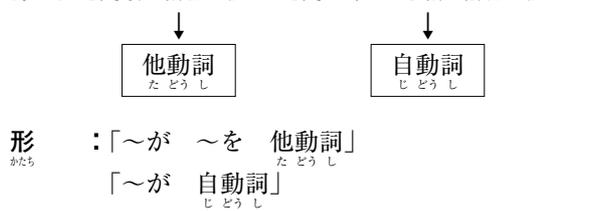
もし、あなたが男の子に注目して言うときには a、車に注目するときには b というでしょう。a では「止める」、b では「止まる」という動詞が使われています。

a のように動作主(「男の子」)が、ほかのもの(「車」)に対して何かをするときに他動詞(「止める」)を、反対に、動作を受ける対象(「車」)がどう変化するかを表すときには自動詞(「止まる」)を使います。

対(ペア)のある他動詞・自動詞のポイントは次のようです。

### ポイント:

話し手が動作主に焦点を置くか、動作を受ける対象に焦点を置くか。



上の「焦点を置く」というのは、「注意を置く」「注目する」という意味です。

では、次の会話を見てみましょう

- 【会話】 A: ああ、寒い。  
あっ、窓が開いていますね。  
B: 本当ですね。だれが開けたんでしょう。  
A: さあ…

Aさんは窓に注目して、窓のことを話しています。一方、Bさんは窓を開けた人を問題にしています。Aさんは自動詞「開く」を、Bさんは他動詞「開ける」を使っています。このように他動詞・自動詞の使い分けは、話し手が動作主に焦点を置くか、動作を受ける対象に焦点を置くかによって決まります。

他動詞・自動詞のポイントがわかったら、次に大切なことは、基本的な他動詞・自動詞を覚えることです。次の他動詞・自動詞のペアはよく使われるものなので、正確に、そして、完全に覚えてください。

他動詞		自動詞
友子がドアを開ける	⇔	ドアが開く
友子がドアを閉める	⇔	ドアが閉まる
友子が電気をつける	⇔	電気がつく
友子が電気を消す	⇔	電気が消える

